



はやし かずみ
【大賞】 林 一美

「おじいちゃんと結婚する。」

いきなり怜ちゃんにプロポーズされた。

女の児からのプロポーズは生まれて初めての経験。

「嬉しいけど怜ちゃん5才、爺ちゃん85才。歳が違い過ぎるよ。」と言ったら、

「年の差婚、はやりだから。」の一言に爺サマの五体が震えた。

「結婚って何すること？」と聞いたら、

「知らないッ。」この一言で爺サマは救われた。

お正月、怜ちゃんが爺サマに一枚の半紙を手渡した。

そこに書かれていたのは

「表彰状、おじいちゃんどの あなたはがんばって85才まで生きてきました。

この栄光を讃えここに表彰します」

1月4日が爺ちゃんの誕生日であることを知っての茶目っ気。

でもどんな表彰状より嬉しい宝物、爺サマは三拝九拝して喜んだ。

怜ちゃんは大病院で喉の手術をして退院の日、

先生に一枚の半紙を手渡した。

そこには「表彰状 先生どの あなたは手術に成功されました。

この栄光を讃えここに表彰します」と書かれていた。

5才の女児からの表彰状、先生は後生大事に白衣のポケットに入れて

歩いていた。お正月、この先生から年賀状が届いた。

大人からのたった1枚の年賀状、怜ちゃんは宝物にした。

怜ちゃんが20年、30年後、おじいちゃんと結婚すると言ってくれるまで

爺サマは生きねばならない。大志を抱いて生きることにした。

爺ちゃんの最大の恋人怜ちゃん、人生の目標を与えてくれてアリガトウ。

(岐阜県／85歳／農夫)

